

神戸町教育委員会
事務事業の点検・評価報告
(令和元年度事業)

神戸町教育委員会

I はじめに

1 教育委員会事務事業の点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会の事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされています。また、点検・評価を行う際には、学識経験者の知見の活用を図ることも規定されています。

そこで、当委員会としては、次年度の事務執行に資するため、当該年度の事務について自己点検及び評価を行い、点検報告書としてまとめ、報告いたします。

(参考)

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検・評価の実施方法について

1 評価の対象

教育委員会が令和元年度に実施した事務事業の中から主要なものを抽出し、評価を実施する。

- ・ 教育委員会の活動状況 : 教育委員会会議の実施状況、調査活動の状況等
- ・ 教育委員会の事務事業 : 神戸町教育計画に掲げる重点目標の執行状況及びその成果
- ・ 前年度の点検評価結果への対応状況 : 前年度の点検評価結果において次項による達成度の評価がCまたはDとされた事務事業等に対する対応の状況

2 評価の進め方

(1) 一次評価

各学校及び幼稚園等において神戸町教育計画重点目標に対する評価を行い、その結果を踏まえて事務局各課がその所管する事務事業等について一次評価を行う。

(2) 二次評価

一次評価をもとに、評価委員（外部の学識経験者）により二次評価を実施する。

(3) 最終評価

教育委員会は、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、最終評価を実施して報告書にまとめ、議会に提出するとともに、公表を行う。

3 評価の基準

点検評価においては、次の4区分により達成度の評価を行う。

評 定	評 価 区 分
A	順調に達成しているもの
B	おおむね順調に達成しているもの
C	達成見込みであるが課題があるもの
D	順調でないもの

III 評価結果の概要

1 教育委員会の活動状況

- (1) 教育委員会会議の実施状況 (A) 順調に達成している
- (2) 調査活動の状況等 (B) おおむね順調に達成している

2 事務事業の執行状況

主な施策・事業より、26の事業を対象に点検活動を実施した。評価の結果は、以下の通りである。

- ・ (A) 順調に達成しているもの 11事業／26事業中
- ・ (B) おおむね順調に達成しているもの 15事業／26事業中
- ・ (C) 達成見込みであるが課題があるもの 0事業／26事業中
- ・ (D) 順調でないもの 0事業／26事業中

IV 評価結果の内容

1 教育委員会の活動状況について

点検項目	実績	成果と課題	評価
教育委員会会議の実施状況	<p>開催回数：定例会議 12回 臨時会議 2回</p> <p>審議件数：専決報告 8件 議案 40件 内可決 40件</p>	<p>○町月の定例会議において、各議事を確実に報告し、慎重に審議することができた。各委員のよる活発な意見交換がなされた。</p> <p>○性別、分野の異なる委員構成とし、様々な立場や視点からの意向を、教育行政に反映させることができた。</p> <p>▲学校教育の現状や課題について、家庭や地域の状況と照らし合わせ、意見交流が図られるように工夫していく必要がある。</p>	A
調査活動の状況等	<p>研修視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月7日～11月8日 ・ 岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会に参加し、研修を行った。 <p>町内各学校・園訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 <p>町研究公表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月15日 神戸中学校『自ら学び共に関わり、深い学びに向かう生徒の育成』 	<p>○岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会において、2学期制の取組や外国人児童生徒の日本語指導等について他市町村の現状について交流することができた。</p> <p>○町内の幼稚園や学校を計画的に訪問し、各園や学校の現状やよさを知ることができた。また、園児、児童生徒の実態把握をし、今後に対する指導の方向について助言することができた。</p> <p>○神戸中学校の町研において、各教科における交流の在り方、またICT機器の活用について実践が積み重ねられ、その成果を町全体に広めることができた。</p> <p>▲計画訪問のみならず、機会をとらえて学校と連携を図り、継続した学校教育・幼稚園教育への指導を行えるよう工夫していく。</p>	B

2 事務事業の執行状況について（教育計画の評価）

（1） 幼児教育について

領域	重点目標	成果と課題	評価
幼稚園 経営	全教職員が協力して、感動と活力のある園経営をする。	○今年度も年度初めに、教育方針や研究構想について共通理解する場をもつことにより、それぞれの行事や取組において統一感のある支援を行うことができた。 ○子ども一人一人の姿や異年齢のつながりについて、園の実態に合わせた話し合いを行うことができた。 ▲さらに、全職員で共通理解が進むよう、報告や連携の仕方を工夫する必要がある。	B
研修	園や自己の課題を明確にし、計画的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○公開保育を行うことで、子どもの様子と保育者の意図に視点をあて、意見交流を行うことができるとともに、幼児理解が深まった。 ○年齢別研修会や四園合同研究会において、園児の育ちや興味関心がある遊びについて、担任間や職員会議で話し合い、発達の段階に合わせた環境構成を明らかにすることができた。 ▲日常的に幼児理解ができるよう、職員間の交流について工夫していく必要がある。	B
指導	発達の課題に即し、遊びを通した総合的な指導をする。	○温かい言葉がけや接し方により、子どもの思いに寄り添うとともに、保護者との信頼関係を深めることができた。 ○なかよし遊びや異年齢交流で、友達や保護者と遊ぶ楽しさを一層感じるできるようになった。 ▲遊びのルールや約束、友達の思いなど、園児が自ら気付いたり考えたりすることができるよう、指導や援助の在り方を工夫する必要がある。	B
協力連携	園と学校、家庭、地域社会、関係諸機関との積極的な連携強化を図る。	○巡回観察において、具体的な支援の在り方について話し合うことができ、普段の保育に生かすことができた。 ○たんぼぼ学園や保健センターと情報交流したり指導を受けたりすることで、個に応じた支援につなげることができた。 ▲小学校との連携を深め、より円滑な接続ができるようにする。	A

(2) 学校教育について

領域	重点目標	成果と課題	評価
学校経営	全教職員が協力して、感動と活力のある学校経営をする。	<p>○すべての職員が、危機管理意識を高くもち、安全で安心な学校づくりに取り組むことができた。</p> <p>○学校行事において、地域の方々と共に活動をしたり講話を聞いたりする活動を通し、町のよさに親しむことができた。</p> <p>▲さらに、職員間における「報告・連絡・相談」を進め、共通理解、共通行動で児童生徒の指導にあたる必要がある。</p>	A
研修	学校や自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	<p>○授業公開を計画的、積極的に行うことにより、他学年との交流や授業改善のための方策をもつことができた。</p> <p>○ICT機器やノート交流、授業研を通して、指導力を高めることができた。</p> <p>▲働き方改革を進めるとともに、教材研究やICT機器に関わる研修の場を確保する必要がある。</p>	A
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力等及び学びに向かう力や人間性等を育て、学力向上を推進する。	<p>○さまざまな教科・領域において、ICT機器を積極的に活用し、児童生徒の学習意欲の向上につなげることができた。</p> <p>○「聞く、話す、読む、書く」について、授業以外の場でもこだわり、継続的に指導することができた。</p> <p>▲日常的な教師同士の情報交流の場を確保していく必要がある。</p>	A
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	<p>○道徳の時間が教育課程に確実に位置付き、意図的計画的に実施することができた。</p> <p>○師範授業の参観や研修会等を通じて、問題解決的な道徳の実現に向けて、場面設定や発問について学び合うことができた。</p> <p>▲今後も年間指導計画や別葉を活用し、道徳的心情を養う指導を展開していく。</p>	B
外国語活動	グローバル社会に対応できる実践的なコミュニケーション能力の素地を養う。	<p>○英語専科の先生により、スピーチや対話活動が充実するとともに、一貫性のある指導を行うことができた。</p> <p>○ALTと連携しながら、児童が積極的に活動に参加することができた。</p> <p>▲評価規準の設定等、評価の在り方を具体的にすることが必要がある。</p>	B

領域	重点目標	成果と課題	評価
総合的な学習の時間	探求的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○地域の特色やよさを地域の方々から直接知ることができ、実感を伴った学びにつなげることができた。 ○職業講話や職業体験で、地域の事業所や働く人々の思いを知り、地域の一員としての自覚を高めていくことができた。 ▲児童生徒一人一人の主体的な探求活動になるよう、時間の確保や内容の精選を進める必要がある。	B
特別活動	望ましい集団活動を通して、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○学級内で問題が起きた時には、学級での話し合いの場をもち、生活を見つめ直したり互いの気持ちを交流したりするなどして解決につなげることができた。 ○行事と日常生活をつなぎながら、活動を仕組むことができた。 ▲リーダーとしての力が付きつつあるが、フォロワーとして構えについて、指導を充実させる必要がある。	B
生徒指導	児童生徒の共感的理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる。	○日常生活や学校行事を通して、仲間と関わることの大切さについて、多くの児童生徒が学ぶことができた。 ○生徒指導的な問題に対し、管理職と各担任とが情報を共有し、組織的に対応することができた。 ▲不登校や仲間関係におけるトラブル等に対し、SCやSSWと情報共有を図るなど、関係諸機関の連携を充実させていく。	A
キャリア教育	自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。	○職業講話では、生徒のニーズに合わせ、話を聞くことができ、働く上で必要なことは何かについて学ぶことができた。 ○様々な活動を通して、自分ができるようになったことを自覚させ、自らの成長を実感できる指導を行うことができた。 ▲児童生徒の一人一人が夢や希望をもつことができるよう、活動を工夫していく必要がある。	B
健康教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。	○生活健康チェック等を活用し、健康に対する意識を高める指導ができた。 ○全小中学校に空調が整備され、暑い日も集中して授業に取り組むことができた。 ▲個によって好き嫌いの差が大きく、食育指導の在り方や家庭との連携を工夫していく必要がある。	B

領域	重点目標	成果と課題	評価
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	<p>○関係機関の連携や保護者との面談を通して、その子に必要な教育支援の充実に努めることができた。</p> <p>○配慮が必要な児童生徒について、職員間で情報交流を行い、共通理解のうえ、指導援助にあたることができた。</p> <p>▲一人一人の教育的ニーズや指導による成果や課題について検証する場が必要である。</p>	A
協力連携	学校と園、家庭、地域社会、関係諸機関との積極的な連携を図り、工夫改善に努める。	<p>○入学説明会や生徒指導主事の小学校訪問等、小中の連携が充実してきた。</p> <p>○ゴミマスターズ、太鼓クラブ、消防等、地域の活動に対して、児童生徒が積極的に参加することができた。</p> <p>▲令和3年度のコミュニティスクール設立に向けて準備を進める必要がある。</p>	A

(3) 社会教育について

領域	重点目標	成果と課題	評価
人権教育の推進	差別や偏見を「見抜く・見逃さない・しない・させない」意識の高揚 ・人権に関する教育活動の推進 ・人権尊重を推進する体制の確立	▲人権教育推進の取り組みについて継続的に行う必要がある。 ▲福祉部局との連携をさらに図り、神戸町人権施策推進指針に沿った、全町的な取り組みを推進する必要がある。	B
家庭教育の充実	家庭教育に自主的に取り組むことができる環境整備の推進 ・家庭教育学級の充実 ・子育ての支援に関する情報提供の充実 ・「家庭の日」の普及 ・「話そう！語ろう！わが家の約束」運動の展開	○子育て支援「ほっと」との共催で子育て中の親を対象に、年5回わくわくセミナーを開催した。 ○県事務所等の指導により、各小学校PTA、各幼稚園保護者会主催による家庭教育学級の充実を図り、家庭教育に自主的に取り組む環境が整備された。 ○道徳教育推進のため、小・中学生から道徳教育推進標語4,000点と図画ポスター305点の応募があり、標語優秀作品は、のぼり旗を作成し各区に配布することで、道徳教育の啓発ができた。 ○「家庭の日」を毎月町広報でPRすると共に、中央公民館及び地区公民館事業の中で、親子で参加できるイベントを実施することで、「家庭の日」の普及・啓発を図った。	B
地域教育力の向上	地域全体で子どもたちの学びを支援する地域教育力の向上 ・地域の教育力を活用した学習機会の充実 ・関係団体と連携した社会教育の推進 ・放課後子ども教室の活動内容の充実	○青少年健全育成町民会議が主体となり、育成団体における交流活動やあいさつ運動等を推進して、協働体制で取組の充実を図っている。 ○地区公民館事業の中で、子どもたちに地域の自然、歴史など身近な教育資源を活用した事業を実施した。 ○小学校、中学校、保護者それぞれが策定したネットルール「ごうど安全・安心ネットルール」に基づき、研修会の実施や、学校・家庭における実践を行っている。 ○放課後子ども教室を神戸小校区及び下宮小校区の2つの校区で開設し、地域に根ざした活動を実施して地域教育力の向上を図っている。	B
青少年健全育成の推進	青少年を見守り育む社会環境づくり ・体験学習機会の充実 ・非行・いじめの未然防止の推進 ・情報モラルに関する啓発の充実	○各校区や地区において、自主的なサポーターや見守り隊が組織されている。また、あいさつなどの地域の声掛け運動など、地域における子ども見守り活動が定着している。 ○非行の未然防止について、交番等関係機関と連携をとりながら情報交換を行っている。また、お帰りチャイムにあわせてパトロールを実施し	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心できる環境整備の推進 	<p>ている。</p> <p>○「子ども 110 番の家」として登録してある約 200 の家庭や事業所等に現況確認を行い、表示看板の更新が必要なところに対応した。</p>	
生涯学習の振興	<p>多様化する町民ニーズに応える学習機会の提供と環境の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民主導による学習機会の提供 ・公民館を拠点とした生涯学習の推進 ・生涯学習体制・指導者の充実 ・読書機会の充実 	<p>○地区公民館が主体となって、幅広い年齢層の地区住民を対象とした各種講座等を開講し、多様な学習機会を提供している。</p> <p>▲地域住民が様々な学習を通じて学んだ成果を地域に役立てる「地域づくり型生涯学習」の推進と人材の育成を図る必要がある。</p> <p>○図書館運営協議会により、図書館運営の充実を図っている。</p> <p>○「町子どもの読書推進計画（H27～R1）」に沿って、読書環境整備の向上を図っている。</p> <p>○幼稚園や小学校児童の図書館訪問、図書館職員による学校訪問、近隣市町の中高生の職場体験の積極的受入れ、催事における大学生サークルの招聘等を行い、学社連携を図っている。</p>	A
芸術文化の振興、文化財の保護と継承	<p>地域に根ざした多様な文化活動の推進と文化遺産の伝承への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化活動の充実 ・文化財の保護と普及啓発 	<p>○神戸町日比野五鳳記念美術館で、春・秋季展及び美術展を開催した。秋季展は文化祭の開催に併せて文化祭期間を入館料無料とした。</p> <p>○美術展、文化祭、文芸ごうどなどで、町民の芸術文化の向上が図られている。</p> <p>○五鳳記念美術館で、11月に35周年事業「水穂会研究会」が行われ、郷土の偉人に対する理解を深めた。</p> <p>▲子どもたちが、地域の伝統芸術や行事に触れ親しむ機会をより提供していく必要がある。</p> <p>▲埋もれている文化財の調査研究を推進する必要がある。</p> <p>○文化財の保護、保存を適切に行うため、文化遺産活用推進事業を活用し、神戸山王まつりの調査及び映像記録の保存を行う。(R元～R4)</p> <p>○国・県・町文化財を広く紹介するために町ホームページに掲載している。</p>	B

生涯スポーツの振興	生涯にわたりスポーツ活動に参加できる環境の整備と機会の充実 ・生涯スポーツ活動の普及と団体、指導者の育成 ・情報提供の充実 ・スポーツ施設、備品の充実	○ごうどスポーツクラブによる、各種教室や行事等が工夫され、積極的に実施されている。 ○スポーツクラブ・体育協会・スポーツ少年団の活動を支援し、組織の充実を図っている。 ○スポーツ関係団体が連携し、スポーツ・レクリエーション活動人口の拡大を図るため、スポーツ推進連絡協議会主催による、スポーツの祭典（スポレク DAY）を開催した。 ○引き続き、体育施設及び学校開放施設の備品の充実を進めた。	A
国際化への対応	国際化に対応できる人材の育成 ・国際化意識の啓発・普及 ・外国人への情報提供の充実及び支援体制の強化	▲関係機関との情報連携及び支援体制の強化を図る必要がある。 ▲地域社会における国際感覚豊かなひとづくりの推進に向け、リーダーや交流ボランティアの育成が必要である。	B

(4) 前年度、C又はDとされた事務事業等に対する対応状況について

「C」 : 該当項目なし

「D」 : 該当項目なし

V 評価委員からの評価（令和元年度）

教育委員会の活動状況	<p>◎定例会議等において、上程された40議案が、活発な意見交換と慎重審議によって可決されていることは評価できる。</p> <p>◎喫緊の課題である通学路の安全点検を図るために「通学路安全推進会議」を設置し、事務局が中心になって関係団体との協力連携によって全町の危険個所が調査された。さらに早急にその具体策を講じられたことは大いに評価できる。</p> <p>○定例訪問における指導にとどまらず、評議員や安全サポーター等を交えて、日常的に地域の児童生徒の実態把握に努められるよう望みたい。</p>
幼児教育	<p>◎多忙な勤務態勢のなかで、公開保育や研修会を通して個々の園児理解を深め積極的に意見交換がなされ、その経営努力は大いに評価される。</p> <p>◎保護者の多様な思いや願いに応えるために、個々の園児の適切な支援策を得るよう、たんぼぼ学園や保健センターと情報交流し、より適切な指導を図られていることは大いに評価できる。</p> <p>○小学校と隣接している本町の幼稚園は、その立地条件の良さを生かし、発達段階に応じた園児の理解や一貫性のある指導が期待される。幼少交流の体験活動や避難訓練など連携協力の行事は、保護者が抱く保育の安全安心感にもつながり、一層教育効果が上げられるものと考えられる。</p>
学校教育	<p>○子どもたちの安全・安心を守る対策や指導を最優先とし、日常的に学校ぐるみで経営努力がなされていることを評価する。危機管理意識をもって、地域や関係機関と協力する取組の一層の充実を望みたい。</p> <p>◎さまざま教科・領域において、ICT機器の有効活用を図り、児童生徒の学習意欲の向上や教職員の指導改善に努められ、評価値も高まり、大いに評価できる。</p> <p>今後は、機器活用能力の個人差や家庭の環境整備の有無など、その格差への対応やレベル毎のきめ細やかな指導、学習集団の学び合いなど、新たな課題についても研修を深められるよう望みたい。</p> <p>○英語専科やALTの講師との協力による指導の成果で、子どもたちのスピーチや対話を楽しみながら学ぶ姿も見られ、学習意欲の向上が伺える。次年度から始まる新たな外国語活動（中学年への「導入」、高学年の「教科化」）の指導計画や指導内容に生かすことを期待する。</p> <p>◎集団で学び合う活動や行事を通して、仲間と係わる意識が高まり、いろいろな場において健全に成長する姿が多く見られ、評価値も高まり、改善が図られた。</p> <p>今後はリーダー力だけでなく、相互に尊重し合うフォロワーとしての心構えの指導など豊かな人間性や規律ある社会性を醸成する指導の充実を望みたい。</p> <p>◎本町では全小中学校に空調がいち早く整備され、教育環境の一層の充実が図られた。猛暑の中でも集中して授業に取り組む姿が見られ、児童生徒や教職員の健康面に配慮した事業効果は大いに評価できる。</p>

社会教育	<p>○地区公民館事業において、子どもたちに「地域の自然や歴史を学ぶ活動」が継続して実施されている。運営や講師などに地域ボランティアを積極的に活用され、地域の教育力向上が一層期待される。今後はより多くの人材の確保や地域資源の調査や発掘にも努め、本町教育の魅力的な特色ある事業になるよう期待する。</p> <p>◎地区における子どもの見守り活動が継続して行われている。地道な活動ではあるが、青少年愛護の町として、青少年が気持ちよく挨拶を交わす姿は誇りたいものです。各校区における地域的な広がりや定着を大いに評価する。</p> <p>○小中学校やPTAで策定した「ごうど安全・安心ネットルール」は、着実に浸透しているのか、その見極めを保護者と共に検証していく必要がある。正しい情報モラルが定着するように、指導の改善や啓発の工夫など具体的な取組を望みたい。</p> <p>◎郷土の文化財の保護・保存を適切に行うため、文化遺産の伝承への支援事業に継続して取り組まれていることは大いに評価できる。事業内容及び経過報告などを町のホームページや広報などに掲載し、情報発信されることを期待する。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総括

- ◎教育委員会の会議録、公共施設の耐震診断結果や改修状況の公表など、情報公開が積極的に行われ、開かれた教育行政に努められていることは大いに評価できます。
 今後は、公開情報にある「通学路の安全プログラム」や「対策箇所図」など町民全体に広報で知らせ、地域ぐるみで安全安心の町づくりに取り組む施策が実施されるよう期待します。
- ◎学校教育の各領域における重点目標は概ね達成され、評価値も高まり、本町の教育は着実に推進されています。継続した研修が成果につながっています。一方、公表された「全国学力・学習状況調査の結果概要」を見ると、望ましい生活習慣の確立は学力向上には欠かせないことが明らかです。今後は子どもたちの健やかな成長のために、保護者と連携協力し、食育やゲーム・スマホ依存対策など生活習慣に係わる具体的な指導の徹底を要望します。
- 「総合的な学習の時間」が縮減されるなかで、体験学習型の地域学習まで軽視されることは避けたいものです。時間の確保や内容の精選などの課題はありますが、暮らしやすい本町の良さや優れた歴史・文化遺産を学ぶふるさと学習は極めて大切です。地域素材の発掘やテーマの焦点化などの工夫や学びの楽しさ・問題解決力の育成など、指導の創意工夫と内容充実を期待します。
- ◎仲間関係のいじめやトラブルなど顕在化している生徒指導の諸問題が減少しています。教職員の共感的理解とあたたかい指導姿勢によるもので、大いに評価できます。今後は日常的に風通しの良い職員組織で、情報の共有化や相互支援に努められますよう要望します。
- 地域の伝統芸術や行事に係わるものが少なくなり（特に本年度はコロナ禍の影響が大きくなっている）、世代間交流の活動の低下が見られます。学社連携の事業を通して、青少年に地域の文化に触れ親しむ教育の場を創り出すことが急務と考えます。このことが、今日的課題である「地域づくり型生涯学習」の第一歩になるのではないのでしょうか。

令和2年10月6日

神戸町教育委員会点検評価委員
北村 哲郎